

「春季大祭・豊穰祈願祭」、おめでとうございます。

柔らかな春の光が射し始め、心浮き立つ頃を迎えました。

本日は、聖地・瑞雲郷において、全国の皆さまと共に大祭を執り行わせていただきましたこと、心よりお慶び申し上げます。

ただ今は、メシアであられる明主様に結ばれた私共が、こうして聖地に集い、共に天国に立ち返ることができるようお計らいくださっている神様に対しまして、心からの感謝をご奉告させていただきました。

また、本日の大祭には、教主様にご出座賜っています。

教主様には、いつも温かいお心をもって私共全ての信徒に分け隔てなく寄り添ってくださり、『夜昼転換』した全く新しい昼の時代の信仰へのご教導くださいますこと、皆さまと共に、心より感謝をもって御礼申し上げたいと思います。

本日も、私共一人一人の中心（分^{わけ}霊^{たま}）に、大光明の輝きをもって生きておられる神様に、心を向けさせていただける喜びを胸に刻み、そのみ心を“より一層お受けさせていただきたいのです、”という思いを大切に、ご挨拶申し上げます。

先ほどは、全国の信徒の皆さまを代表して、〇〇所長が感謝奉告をしてくださいました。ありがとうございました。

〇〇所長は、ご家庭にいただいた浄化を通して、また、「祈りの言葉」を中心とした“想念の御用、”としての「会う、聞く、浄霊」にお使いいただく中、本当の親である神様のご存在と、『メシアの御名^{みな}』に込められた神様の愛と赦しと救いのみ心に心に向ける養いをいただいている喜びをご奉告くださいました。

私共も、「真善美」配布を力とする「会う、聞く、浄霊」をはじめ、日常生活の事柄全てを大切なお神業奉仕として、「祈りの言葉」をもって“想念の御用、”に少しでもお仕えさせていただきたいと思わせていただきました。

そして、教主様が、「新年ご挨拶」の中で私共に呼び掛けてくださったように、明主様と共にあるメシアの御名があればこそ、赦され、救われたものとして、主神にお仕えさせていただけるという全く新しい信仰に、本年はより一層目覚めさせていただきましよう。

さて、今年も、①之光教団の私共は、ご昇天になられても『霊界から働きますから』とおっしゃった、つまり今も生きておられる明主様のみ教えとご

浄霊を本当に理解し、実践させていただくことをひたすら願わせていただいて、明主様にお喜びいただける一年とさせていただきたいと存じます。

そのために、み教えの神髄をお取り次ぎくださる教主様のご教導を唯一絶対無二のよりどころとして、新しい昼の時代の「想念の革正」に一途に努めさせていただきたいと願っています。

そして、明主様が『大前に^{ぬかず}額く毎に涙しぬ』とおっしゃって心から額ずかれた、天地万物一切の創造主・主神のお計らいの中に置いていただいていることに、私共も真っすぐ心向けさせていただきたいと思います。

こうした営みの中で、私共は、“明主様と共にあるメシアの御名^{みな}にあつて、”という天国に通じる大切な“赦し”の言霊とルートをいただいたものとして、神様の子供・メシアとして『新しく生まれる』養いをお受けして、今年もご一緒に進ませていただきましょう。

明主様が、数え切れないほどのご浄霊の奇蹟を通して、主神の言葉である膨大なみ教えを通して、また、光のご生涯のさまざまなご事蹟を通して、私共に本当にお伝えになりたかったこと、①之光教団はどこまでも“ここ”を求め、“本当の明主様信仰”の道を歩ませていただきたいと思います。

ですから、明主様のご生涯の最後に、『私も驚いたんです』『奇蹟以上の奇蹟』『はじめて人類は救われる』『たいへんな事件なんです』等のお言葉をもって、極めて大切なこととしてお示しくださった『メシアの御名』の受け止めについて、私共は明主様の信徒として、たとえその一端でも受け止めさせていただくことが大切なのではないのでしょうか。

そして、神様のご自身の子供たるメシアをお生みになるという“明主様の全く新しい救いの福音”を少しでもお受けし、また、一人でも多くの方にお伝えしていく“①之光教団の布教”に、本年もより一層、皆さまとご一緒に向かわせていただきたいと思います。

来月私共は、全国全ての布教所に、「大光明」のご神体奉斎をお許しいたできます。

一昨年本部に、そして、昨年全国全ての布教区に、「大光明」のご神体奉斎^{わけみたま}をお許しいただいた私共は、人類一人一人のうちに、この中心の分霊に、大光明の燦然と輝く光と共に、永遠の命である神様が生きておられる天国をいただいているという喜びを知るものとしていただきました。

その上、その神様が、明主様を通して、『メシアの御名を奉称せよ さらば救はれん』とおっしゃって、私共を、赦しをもって天国に迎え入れてくださっていることを知り、さらに、「祈りの言葉」という天国に立ち返らせて

いただく道をも賜りました。

私は、このような神様の愛と赦しと救いのみ心が、「大光明」のご神体に、そして、『メシアの御名』に強く込められているのだと信じ、全国の皆さまと共に心いっぱい喜びをもって、来月のご神体奉斎式をお迎えさせていただきたいと存じます。

話は変わりますが、本日私共は、「春季大祭」に併せて「豊穰祈願祭」を執り行わせていただきました。全国の自然農法実施農家をはじめ、家庭菜園に取り組んでいる方々から聖地に寄せられました種子を救世神殿にお供えし、今年一年の豊かな実りをお祈りさせていただきました。

昨年「豊穰祈願祭」において、教主様は、

主神は、農作物の豊穰だけではなく、私ども自身の豊穰を何よりも願っていらっしゃいます。

そして、主神は、明主様と共におられて、私どもを支え、助けてくださりながら、日々私どもの心を耕し、手塩に掛けて育ててくださっています。

私どもを豊かな実りとして、すなわち、ご自身の子という豊かな実りとしてお受け取りになることを願っていらっしゃいます。

と、このようにご教導くださいました。

本日私共は、ご神前にお供えした種子とともに、自らの全てを神様に委ねさせていただき、今年も一人一人の上に神様のみ旨が大きく成し遂げられますようお祈りさせていただき、本年のご神業奉仕にお仕えさせていただきたいと存じます。

それではただ今より、教主様のお言葉を賜ります。

元旦に賜りました「新年ご挨拶」とともに、本日のご教導を心の中心に大切に受け止め、大光明の輝きのもと、心新たに新年度からのご神業奉仕に、大いなる喜びと希望をもって努めさせていただきます。

本日も、こうして全国の皆さまと共に明主様にお仕えさせていただいておりますことに感謝申し上げ、大祭の挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。